

---

小 池 昌 人

議長（村松 積） 次に、1番、小池昌人君、質問を許します。登壇願います。

1番、小池昌人君。

1番（小池 昌人） 1番、小池昌人です。

私は、観光施策と災害時相互応援協定の2点につきましてご質問させていただきます。

下條村を取り巻く交通環境の劇的変化の予想が起きておるわけでございますけれども、下條村と阿智村の境、うぐす地籍におきまして、天竜公園阿智線の伍加工区の工事が本格的に着工されまして、山肌がだいぶ露出し、掘削土の搬出が盛んに行われております。この数年で伍加地籍の完成している道路までつながる予定でありまして、国道153号線への行き来の利便性が実現します。

三遠南信自動車道におきましても、平成20年4月13日に山本天竜峡間が開通し、事業仕分け等で事業の継続制の見直しの危惧がされたものの、飯喬工区においても飛び飛びではありますが、道筋が見えてまいりました。

もっとも注目度が高く、移動時間距離短縮が図られるリニア中央新幹線においては、リニア中央新幹線の整備計画を検討する国土交通省交通政策審議会鉄道部会リニア小委員会3回目が5月10日に開かれ、JR東海のヒアリングにおいて山田社長は、「南アルプスルートで進めるしか道はない」と強調し、県内駅については飯田エリアの設置を想定し、「南アルプスルートこそ県内に利便をもたらす」としています。

開業については、2027年としましたが、経営状況によっては前倒しも可能だとし、「できる限り早く開業したい」と主張し、2014年内に着手したい考えを改めて示しました。

6月4日のリニア小委員会4回目では、ルート関連4県の知事からのヒアリングが行われ、村井知事は経路問題について2案を巡り、地域ごとに意見が分かれている県内の状況を説明した上で、事実上JR東海が想定している南アルプスルートを容認した形となりました。

早ければ今年のうちにルート発表になるのではないかと予想されて、リニア中央新幹線が次の段階へ大きなステップを迎えようとしており、未知なる期待と希望を膨らませるところです。

この南信州下條村においても、東西南北を広範囲に短時間で結ぶことが可能なこれらの交通網整備により、ここ数年でいろいろな場面において劇的に変化するのではないかと考えられます。プラス面マイナス面さまざまな影響が想定される状況下、下條村の良さを残し、伸ばしつつどのような観光振興に施策に取り組みられていくかお尋ねします。

景気の低迷からか、観光入り込み数は減少している状況ではあります。村内観光施設においては、関係者の努力により検討してはおりますが、例外ではなく10年前40万人をピークに30万人を割り込むことになっており、収益を上げるのに苦慮していると感じられます。観光形態や余暇の楽しみ方も変化しつつある中、現在取り上げられている観光施設の見直しと村内にある観光対象となり得る資源、自然や農業を含めての拾い出しと掘り起こしを行い、整備し、積極的にPRをして計画についてどのようにお考えでしょうか。

続きまして刈谷市と飯田市、下條村との災害時応援協定についてお尋ねします。

下條村が災害時に自治体相互の応援として協定を結んでいるのは、近隣地域に対しての1つ阿南地区消防相互応援協定。2つ目に隣接市町村消防機関相互応援協定。それから長野県市町村災害時相互応援協定。また、県境を越えて飯伊ブロックの一員としまして、南信州災害時相互応援協定の協定を結んでおりますが、広域に及ぶ災害が発生した場合、近隣自治体も被災している状況が想定され、相互応援ができない可能性があります。しかし、県外の離れた地域と災害応援協定を結ぶことは、そうした災害に対し相互に応援態勢をとれる可能性があり、非常に有益なことだと思われまます。

4月16日、飯田市と下條村は、刈谷市と災害時応援協定を結んだことは、そうした意味で評価すべきことであり、交流や結びつきが一層強くなることと思われまます。

災害時応援協定に至る経緯は、どのようなものであったのかお尋ねします。

また、災害応援協定が発動されるような災害が起こっても困るわけですが、想定される災害応援内容とその方法はどのようなものになるか。また、応援要請が発生するような場合は大災害と思われまますが、遠隔地へある程度の期間を要する災害応援に対する準備、例えば人材ですとか応援物資といったものは、どのような計画になっているのかお尋ねしたいと思いまます。

以上で質問を終わります。

議長（村松 積） 伊藤村長、答弁願いまます。

村長（伊藤 喜平） 小池議員の質問にお答えいたします。

まず、最初にリニアの問題が出ました。大綱としてはそのとおりでございます。しかし、ちょっとまだまだこの煮え立つような議論をするのは、なぜその自治体、広域でもう少し一生懸命やらないかということでございますけれども、これもやはり長野県全体を考えると、今諏訪・岡谷・上伊那地域がBルートでまだこの時期になっても燃え上がっております。いたずらな衝突はすべきでないということ。

それから県の権力というのは、この県の例えばこの普天間基地でもそうでございますけれども、辺野古沖に基地を作るたって、仲井間知事がはんこを押さなければあれできないということでございまして、例えば1つの例は大鹿からパイロットトンネルを掘るというときに、農地解除のはんこをまだ押さないということで、鹿島建設と契約ができておったものをこれ破棄にしたと。これいい悪いは別にしても、我々から考えればとんでもないことなただけけれども、それだけの権限があるところで、わっしょいわっしょいやってもこれは得策でないということで、水面下では非常に積極的にやっております。

この前も陳情に行っただけでしたが、陳情先が今は幹事長室でなければいけないと。行ったらそこに生方さんしかおらんというだもんでいやになる。小沢さんのところへ生方さんに陳情書渡すといえどこれは危ない。生方さんってご承知だと思いますけれども、小沢さんの天敵でございまして、よくあれだけのことを言えるなということでございますけれども、それしかおらんということでお願いしてきた経緯もあるわけでございますけれども、水面下では一生懸命やっております。

今お話のように、これは基本的には交通体系政策審議会なるものは、そうはいつでも国の幹線であるということ。それともう1つ、私も時々名古屋ホームで早めに行って見ておるんですけども、時刻表を見るとわかるんですけども、東海道新幹線は一日にピークの時は1時間に13本片道。多くても26本。この前、新山口にちょっと行くことがありまして行ってそれから東京行ったんですけども、いくらのぞみで行っても5時間近くかかるということでございます。

そののぞみでもひかりでもそうでございますけれども、25mの車両が16両編成というのと400m。400mの鉄の塊が250km、270kmでぶんぶんぶんぶん2分ちょいで走っておるわけでございます。事故があったらえらいことでございますけれども、事

故は1つもない。そして的確な時間、1分遅れるなんていうことはまずないということで走っておる。

それはそれで素晴らしいんですけども、そいじゃそのメンテをどうするんだと。何か起きたときにどうするんだということと、どんないいもんでも経年劣化というのがあるわけでございますけれども、それにどういうふうにやっていくかということになると、どうしてもリニアは必要であるということで、国もかかわらなければおかしいということで、今交通審議会。そして運輸省の鉄道部長のところにも行ってまいりました。基本的にはJR東海さんが全部やることでございます。JR東海さんは株式会社。私どもは、広域性を失わん限りはそれに超すべき談はないということでございます。

それで第2回の交通政策審議会の時に、2回で一番の重大な問題を出しました。解決をしました。それはトンネル。これが実現可能かということで、諏訪・岡谷勢は何か中央アルプスに亀裂が生じて、毎年2mmぐらいずつ隆起してなんていうような、天動説だか地動説かわからんようなものも振りかざしてきておりますけれども、今そのテストパイロットは早川町からはほとんどできました。2km。今度はこっちは全然手がついていないわけでございますけれども、これは全国的に見ると「長野県エゴ」というふうにだいたいなっております。

それと40分と7分余分の47分。そしてさっきも言ったと思いますけれども、建設費が5兆1,000億円、片方は。片方は5兆7,400億円。ここで6,400億円JRの試算でやると6,400億円というのはとんでもない話です。

これはこれとしていいとしても、今度は維持費、ランニングコストが年間にアルプスだと1,620億円、それで片方は1,810億円。ランニングコストもかかる、そしてここでまた輸送能力もこれはキロ人と言います。1人の人が200km乗ったら200km人で。そういう表現すると、Cが167億人km。片方は157億人km。そうすると建設費は高い、迂回路はやれば当然造成費は高い。輸送能力がない。いくらリニアだっても経年劣化して更新しなければいけないんですけども、この更新25年から50年のうちに大規模な更新をしなければいけないんですけども、片方は2兆9,100億円、片方は3兆4,200億円。誰がどう見たって、これは我々としては静観をしておった方がいいということで今やって、水面下ではやっておるということ。

それから一番の問題点は、用地の買収ができるかということでございます。これは公共事業でありながら、これ一企業がやることでございます。土地を「ノー」と言われたら強制収用できないわけでございます。こんなの作るわけにはいかん。いつも言っておるように、半径8 kmの範囲で、それが一部分あってどうにか容認できるということで、こんなふうなあれじゃ全然リニアの特性としてできないということで、どうしても回らんとこはこうなると。相当直線ほとんど直線に近い距離があって、そこにとんでもないやつがおったらそこで5年も8年も。強制収用ができないということになると、作為的にやられることもあるわけでございますのでそんな問題。

それから騒音だとかそれから振動、電波障害、それからトンネルの安定性、これらは全部JR東海今までの出した資料と実績でクリアできておると。実験線の何かで。第2回の審議会では何ら問題はなかった。これを不安視する材料がないと。これでOKということに、これを非とする理由がないとかいうことで、要するに直接いえますよと。こんなのできますよということをお願いしたということでございますので、それはそれで私どもは一生懸命やっておるんですけども、できるだけ民間の商工会議所をはじめ商工団体を中心にやっておっていただきます。

その地域が栄えるとか、反映するということ、栄えていなかった地域のことを反省し、そしてこの前に藻谷さん、一緒に最後に飲んでちょっと思ったよりいい男なんですけれども、それも言いました。「ちょっと言い過ぎたけれども、あなたの言うとおり」だ。人間のやることだから大胆に反省点は取り除きやいいわけでございます。今まで失敗したところの反対をやればいいいわけでございますので、そんなことで。

ということでもう1つは、三遠南信これが私は非常に期待をかけております。これは今の情勢でそんなに天竜峡、天竜川超すが精一杯だと思います。とても青崩なんていうの手をつけれる状態ではないと思います。

これから財源ということになると、増税するか消費税上げるかしかないところへもって行って、その我々が考えてみてもちょっと問題があるなということのところへはそうは金がないと思います。22年の末には引佐から鳳来まで開きます。もうほとんどできておるのになんであんなに時間かかるのかなと思うんですけども、そうすると鳳来から151は非常に愛知県側いいいわけございまして、今長野県側も一生懸命やっております。

あんなに金かけんでもいいと思うんですけども、やっております。

そうするとこのルートが私はかえってぼんとするよりは、あの沿線阿南町も通ってくるわけでございますし、下條村も通り、天竜公園阿智線を通して例えば阿智行く場合もあるし、飯田へ行く場合もあるということになると、私は当分の間はその線の早期着工、引佐から鳳来までは徹底して早くやっていただくということと、これは県の方針でもう3年くらいであの完全に県境から新野までができるようになるということでございますので、そんなことで考えてやっております。皆さんから見ると歯がゆいなと思っておりますけれども、やっております。

それから、刈谷市でございますけれども、非常に下條村とは深い結びつきがありまして、平成2年ころだと思います。私まだ議長やっておる時分に、当時ゴルフも適当にやっておりました。飯田カントリーの理事のある1人から「おい、刈谷市が市民休暇村を作るぞ」ということで、いまだいたい車山に決まったということございまして、私も実際行ってみました。あまり大したところじゃねえなということで、大したというかわからんのですけれども、これならということでちょうど今現職の議長さんの名は言いませんけれども、その人が学習生涯部長ということで来ておりました。その人も非常にゴルフがうまい人で、「それを呼ばってやるで1回やれ」ということでゴルフをいたしました。

そんなわけで、車山からこっちへ持ってくるに7年、長すぎた春でございますけれども、7年でやっところちに腰を決めていただいたのは6年でございます。角岡なんていう市長もちょっとご機嫌が悪くてもうおそろおそろ行って調印をした覚えがあるわけでございますけれども、そしてあそこに来て、それから刈谷市とは非常に交流がいいと。

それで去年一応報告しておいたと思いますけれども、去年のある時期に刈谷市さんとの話の中で「おえ、防災協定やろうじゃないか」と。「そうすれば私が使者として」これは広域でやらなければ「あのやろう出し抜きやがったな」と思われても。「私は南信州広域連合を責任もつから、あなたは東海地方のある意味優秀なとこばかりですからそれでやってください」と言ったら「わかりました」と言ったら、今度はそうそう刈谷市さんは「簡単にはいかない」ということで、「どうかそのあれはちょっと小粒にしてくれ」ということで、それじゃ下條村とやりましょうと。それが飯田市となぜか交流があって、職員交流があって、「飯田市と2つでやりましょう」ということで、即私は広域の場でこうこうこ

ういうわけで、決して出し抜いたわけではないんですよ。ここにも市長がおりますけれど、こうでございますということで説明いたしました。

今言うように、刈谷市と下條村というのは正反対でございます。片方は海と川。山と平地。適当な200kmの距離があるということ。その中で同時被災はまずないだろうということになると、大規模ということになればこれは自衛隊だとか国のレベルでございますけれども、こちらはこちらで一生懸命備蓄できるものはやりましようとか、備蓄倉庫を今度も大きくするのもそうでございますし、浄水装置も私どもはあるからもしよかったら使ってくださいとか、向こうにあるものは大いに借りるということでございまして、今相当詰めたものはあります。事務局の方へ行けばきちとした資料があるわけでございますし、そのことにつきましては議長さんにも行っていただき、そして最初のとっかかりは宮嶋議員も若手議員の会議の関係でお願いをいただいたわけでございます。

今でも刈谷市さんにおいては大変いい関係でございまして、ほかでもうらやむ関係でございまして、私たちがただ簡単に甘えるだけ、これはトップが見れば「これは限界だな」と思うわけでございますので、甘えるところは甘える。そして下條村としてもできることは果敢にやる姿勢を見せていかなければ長続きはしないわけでございますので、そうしたもたれ合い、なれ合いというのは現に減じながら、心から許し合える、そして心から信頼できる関係を構築していくことが、防災協定の一番の基本になろうかと思っておりますので、そんなことにも気をつけながら頑張っていくつもりでございますので、よろしく願いいたします。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、再質問ありましたら。

1番、小池昌人君。

1番（小池 昌人） 村内にある観光施設の関係で、今も取り上げられ、PRしている部分もあるんですけども、新たにその拾い出し、あるいは掘り起こし、そして今の施設を見直していくということについてはいかがですか。

議長（村松 積） 伊藤村長。

村長（伊藤 喜平） 下條村はご承知のように、37平方kmという狭い土地でございます。国道もさっき申しましたように7kmしかないということ。そして国道筋にほとんど平らなところがないというのが、これがうちの一番致命傷でございます。

それともう1つの致命傷は、歴史が非常に少ないということでございまして、そうはいっても鎮西、小山田神社だとかそれから龍嶽寺なんか。それからもう1つ吉岡城跡これは私も大失敗をいたしました。あそこに国道が通ったわけでございますけれども、吉岡城跡の真ん真ん中を国道、あれはトンネルにしてもらわなければいけなかったと思っておりますけれども、オープンカットにしてしまっただけで分断してしまったということ。

それから吉岡の町並み、これは絶対に残さなければいけないということで、そのまんまにしておいて牛ヶ爪側のところにいい道をつけて、そこからこういうふうに行けばいいじゃないかと言ったところが、地元ではどうしても1人の人は狂信的にそこあるべきだということで、先生は一生懸命やってくれたんですけれども、どうしても駄目ということでした。

そしてまたとないところで番所だとか何とかいろいろあって、歩き街道にすれば良かったかなと思うんですけれども、これは駄目でございます。

もう1つは、天竜船下り。天竜船下りも私はあるアンケート見たらすごい評判だなと。そしたらあの唐笠から何とかうまくルートを作ればおもしろいかなということ。それから龍嶽寺にも皆さん行ってもわかると思いますけれども、昔はあそこに乗用車が入っていくなんて命がけで入って行きました。あそこ山崎さんのとこ、梅ヶ久保の向こう、大変な反対を押し切って大変な金をつけてバスも大型バスも入れるようになっておるわけでございますし、まだまだ新井天望公園もこれからはさらに整備しなければいけないということで、この前も現地でいろいろ検討、地元の人とも検討いたしました。

それから極楽林道、これについても阿智村との協定、協定というかウォーキング街道としてやっております。

もう1つは、広域の中で拠点は阿智村の昼神に置きましょうということに大まかに決まっております。下條の観光開発に下條へ来てくれなんてそんなせこいことでなく。そして昼神に置いてそれだけの施設を作って、そこから宿泊はどうだ、そして観光はこういうものがある。いろいろそこで采配するように、これは公的なシステムにしてやるようにします。そして来たお客さんは、とにかくその窓口に入ってもらい案内するように。そしたらそこでお客さんの要望が聞けるわけでございます。どうしても「こうだ」とか「神社ばっか見たい」と言えばこうだとか、入登山神社だとか大山田神社いいじゃないかというこ

とを公平公正にやるシステムを作っております。

ロットの大きい、そしてその中で、下條村なかなか行ってみたら良かったよというようなものを作るべく、またこれからもだんだんにやっております。

観光協会というの、なかなか難しいもんでございまして、勘考はするんですけども、「なかなかおまえ勘考ばっかしておる観光協会だ」なんて私は言うんですけども、それ言う方が無理でなかなか難しいもんでございましてけれども、これも下條村これからも大いにタッチし、そしてまた広域の意向も伝えながら、だんだんにやっていくということをご理解いただきたいと思います。

議長（村松 積） 1番、小池昌人君、よろしいですか。

昼食の時間でございましてけれども、引き続き一般質問の方行いたいと思います。